

# 2024連合北海道インターンシップを実施！

## －労働組合からできる就職支援－

連合北海道は9月3日（火）～6日（金）の4日間にわたりインターンシップを実施し、札幌大学や北翔大学から計4名の大学生が参加しました。連合北海道インターンシップは毎年実施しており、道内の学卒就職後3年以内の離職率が全国に比べ高い現状を踏まえて※1)、雇用のミスマッチを減らす取り組みとして、インターンシップ事業に参画しています。

今年度は座学や傍聴、グループワーク、視察など4日間・全15項目のカリキュラムを通して、ワークルール教育をはじめとした労働組合からできる就職支援や社会人生活の観点から幅広いジャンルを学んでいただきました。

9月 曜	分野	内容	9月 曜	分野	内容
3 火	組合	①連合北海道って何をしている？	5 木	発表	③3分間スピーチ
	政治	②議員との連携を知ろう		社会	⑨失敗しない就職活動
	組合	③労働組合？聞いたことあるけど必要なの？		社会	⑩他人事じゃない、職場のハラスメントを知ろう
	組合	④労働組合が平和活動に取り組むのはなんで？		金融	⑪はたらく前におさえてこう！金融リテラシー講座
	組合	⑤賃金について考えよう		挑戦	⑫ワークルール検定に挑戦
4 水	発表	①1分間スピーチ	6 金	視察	⑬サツドラ視察 AI×サービス×はたらく
	法律	⑥ワークルール入門		社会	⑭職場におけるジェンダー平等
	社会	⑦就職に向けた心構え①札幌新卒応援ハローワーク研修		発表	⑮10分間スピーチ「4日間を終えて思うこと」
	社会	⑧就職に向けた心構え②ジョブカフェ北海道			

### 4日間のカリキュラム

初日は、これから就職活動をはじめめる大学3年生を中心とした4名の参加学生が少し緊張の面持ちで初顔合わせをしました。早速、「連合北海道は何をしている？」と題して、連合とは何か、地方連合会である連合北海道の取り組みを説明しました。その後、取り組みをもう少し具体的に知ってもらうために、そもそも労働組合のイメージがない学生に「労働組合」についての説明と意見交換を行った他、根室・沖縄・広島・長崎での平和活動を中心とした「労働組合と平和活動」や春闘や最低賃金への取り組みを通して「賃金」について考えてもらう講義を行いました。加えて、実際に北海道議会に訪れ、連合北海道と連携している北海道議員との意見交換の現場を見てもらい、学生にとって内容は難しいながらも、労働政策をはじめとした政策の広さを感じたようでした。



連合北海道と北海道議員の意見交換の話を聞く  
インターン生

2日目は「大学生が知っておきたいワークルール入門」と題して、小樽商科大学の國武英生教授の講義から始まりました。冒頭、國武教授はワークルールを学ぶ必要性について「知らない、不当であることにも気付かない。そうして気付かないうちにストレスがたまり、体や心を壊してしまうので、自分のおかれた状況を理解するためにもワークルールを知ろう」と目的を明確にした上で、本論では①労働契約②就業規則③最低賃金④賃金・労働時間⑤パワハラについて取り上げ、各テーマごとに事例を用い

## 事例で学ぶワークルール

1. 労働契約
2. 就業規則
3. 最低賃金
4. 賃金・労働時間
5. パワー・ハラスメント

ワークルール入門 項目

ながらワークルールを解説しました。学生は自身のアルバイト経験や感性を駆使して事例に取り組み、時にはディスカッションを通して、理解を深めていました。

その後、今後の就活に取り組む上で選択肢を増やしてもらうために、北海道労働局が運営する「札幌新卒応援ハローワーク」、北海道が運営する「ジョブカフェ北海道」を訪れました。両機関ともに様々な新卒向けの就活支援を行っており、ハローワークでは札幌新卒応援ハローワークのナビゲーターが指導のもと、「納得感をも

って就活を終えるためには」をテーマとしたグループディスカッションや説得力のあるプレゼン法の研修を受けると共に、ジョブカフェ北海道では就職活動の情報収集の場として無料で使える施設であることを知ってもらいました。

3日目は北海道安全衛生センターの特別講師である齊藤勉氏から「失敗しない就職活動」、「職場のハラスメントについて知ろう」と題した講義が行われました。就活講座では、長年労働組合の業界に携わってきた齊藤氏がデータや自身の経験を踏まえた、生き方や働き方、これから必要になる考え方や能力などの提言がありました。特に、講義の中では15歳から39歳までの死因の第1位が自殺であり、理由については健康問題に次いで勤務問題となっていることに触れた上で「自殺者の約10人に1人は仕事が原因といわれているため、ワークルールを知ることや職場環境についてきちんと目を向けて欲しい」と今後の就活に向けて考え方を示しました。また、職場のハラスメントの講義では様々なハラスメントを紹介した上で、カスタマーハラスメントについて具体的に解説し



講義前のアイスブレイクの様子

ました。齊藤氏はカスタマーハラスメントについて「個人と個人の問題だけではなく、従業員の安全配慮という会社の取り組み課題でもあり、企業選びにおいても1つの指標になる」と説明しました。

その後、社会人生活という観点から北海道ろうきん本店に訪問し、「金融リテラシー講座」を受講しました。一般的に会社のお給料は学生アルバイト代と比べて収入が増えるため、迂闊にマネートラブルを招かないために、カードローンやリボ払い、悪質商法、多重債務などの説明と注意点を学びました。その他、将来に購入する可能性がある高額商品や想定外の出費に備えて、貯蓄のススメとコツを学んだ上で、営業推進担当の大湯副部長は「詐欺被害などを含めたマネートラブルは自分には関係ないと思っ

4日目は「サッポロドラッグストアー本社及び北8条店」を訪れました。店舗の天井には約80台のAIカメラが設置されており、サッポロドラッグストアーユニオンの氏家中央執行委員長からは「AIカメラ導入によって得られるお客さんの動線や性別、年齢、どの商品を手にとって迷っているのかなどの購買行動の詳細なデータをもとに販売戦略につなげている」と説明がありました。また、職場環境向上の一環として改装されたオフィスについては「従業員同士や社外の方含めたヒトが流動的に繋がれるこ



サツドラに訪問し、説明をうける様子

とが狙い」と説明があり、働きやすい快適な職場環境の一事例を視察できました。その他、サツドラの取り組みの紹介を受けた上で、学生は身近なサービスの現場でのAI導入やオフィスなどの職場環境、プロ意識を体感し、今後の就職活動の刺激を受けたようでした。

その後、「職場におけるジェンダー平等」と題して講義を行い、ジェンダー平等とは何か、平等ではない職場の問題点、制度や政策等でジェンダー平等が進められていても職場の雰囲気や無意識の偏見（アンコンシャスバイアス）が阻害する要因になることなどを学びました。

最後は「4日間を通して思うこと」をテーマに、各学生が10分間スピーチを行いました。人前で10分を話す機会が少ない学生は緊張しながらも、印象に残ったカリキュラムを中心に感じたことを伝え、今後の就活や社会人人生に活かしたいと発表して、4日間のインターンシップを閉講しました。

本年度の連合北海道インターンシップの開催に際し、関係各所の皆様のご協力に感謝申し上げます。連合北海道は引き続き、地域の良質な雇用の確保に向けて積極的に取り組んでいきます。

※1) 新規学卒就職者の就職後3年以内の離職率（令和2年3月卒業～令和5年3月までの間）

・新規高卒就職者	北海道：43.9%	全国：37.0%
・新規短大等卒就職者	北海道：43.7%	全国：42.6%
・新規大卒就職者	北海道：35.7%	全国：32.3%

令和5年11月20日 北海道労働局HP掲載